

この庁舎は、元宮内省帝室林野局木曾支局の庁舎で昭和二年五月に発生した木曾福島町の大火で焼失したために同年十二月に再建したものです。材料の多くは、当時希少だった輸入木材が使われ、被災後わずか半年後に完成しており、地元では当時の帝室林野局の権威を示すものといわれています。なお、この大火では帝室林野局から被災者救済に六千石（約一、〇〇〇立法¹）の木材が無償供与されたとの記録があります。



復元された庁舎

戦後、昭和二十二年からは、林政統一により新設された長野営林局の庁舎として使用されており、森林鉄道や集材機の導入などの林業の近代化や長野県周辺の御料林、国有林野の管理経営の拠点となってきました。昭和三十一年からは福島営林署等として使用され、八十年程度

の長期に亘る林野行政の歴史を積み重ねてきました。

町の教育委員会によると、庁舎の復元は、建築当時の設計図や写真を参考に進められ、間取り、局長室の壁板、照明器具、扉の金具などの形状、色、質感の再現にこだわったとのこと。



復元された局長室

庁舎の一階は郷土料理の研究など木曾の暮らしぶりを体験する空間として利用され、二階に木曾の森林や動植物の剥製、標本、木曾支局の業務等を物語る資料が展示されています。

開館の準備には、木曾町で暮らす国有林の先輩方が多数参加されており、開館日当日も丸太切り体験や周辺の散策ガイドで活躍していました。

木曾町が買って取ってから、町民の署名活動を経て庁舎を復元、活用することになりましたが、昭和二年当時に設置されていた四つの帝室林野局支局庁舎の中で

唯一、残されていくことになり、木曾の国有林野行政と木曾町の住民との関わり

の深さを感じます。木曾町においての際は、是非お立ち寄りください。（月曜日は休館日となっています。）

「高瀬溪谷フェスティバル」

【中信署】国土交通省及び林野庁では、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年七月二十一日から八月三十一日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。



熱心に作品を作る子どもたちと制作した作品

中信森林管理署では、旬間に先駆けて七月十九日に行われた大町ダム見学イベントである「高瀬溪谷フェスティバル」に参加し、丸太切りや小木工品作りのブースを構えて、体験することにより森林に親しんでいただき、併せて国有林のPR活動を行いました。

当日は曇天模様ではありましたが、ダム湖クルージングに歓声をあげたり、大町ダムカレーを堪能したりと、小学生を中心とした家族連れでにぎわいました。当署のブースにおいては、早くも夏休みの宿題の工作づくりとも思える力作の児童も見受けられました。また、子どもたちに交じって熱中するお母さんの姿もあり、楽しい三連休の初日がかがわれた一日でした。

「生物多様性の保全」を考える 乗鞍岳で署内研修

【飛騨署】七月三十日、乗鞍国有林において署職員を対象とした「野生生物保護管理研修」を実施しました。研修は、野生生物の適正な保護及び管理の必要性、人間は野生生物とどのようにつきあうべきか、乗鞍岳の野生生物の種の現状等について乗鞍グリーン・サポート・スタッフの取組から学ぶことを目的として実施し、一六名が参加しました。

研修の内容は、乗鞍岳の山容（火山・地勢・池等）、鳥類（ライチョウ・ホシガラス等）、動物の被害（イノシシ等）、

植生（垂直分布、帰化植物、高山植物等）など多岐にわたりました。乗鞍岳は山麓から山頂にかけて、典型的な垂直森林帯（山地帯・亜高山帯・高山帯）が分布しています。この垂直的な植物社会の変化を確認しながら、乗鞍スカイライン周辺で見られるシラベ等高山樹種とハイマツの立ち枯れの原因についてを議論しました。



条線砂礫の説明を受ける（富士見岳）

桔梗ヶ原（標高二六五〇メートル）では、イノシシによる被害や掘り返しの痕跡を確認しました。周辺ではニホンジカの出現も確認されており、今後、高山生態系への被害対策や人への被害を未然に防ぐ対策を強化していく必要があります。また、海外から持ち込まれたセイヨウタンポポが、人間の社会活動に伴ってハ

イマツ帯まで侵入し、ミヤマタンポポの生育環境を脅かしています。研修では、ミヤマ・セイヨウ・ハイブリッドの違いを学習し、在来種以外のタンポポ駆除活動を実施しました。

この他、高山性鳥類のホンガラスがハイマツの種子散布（種子食鳥類の貯食行動による分散）の主役となっていること、クロユリの花粉を運ぶのはハエで花の独特な悪臭がハエを呼び寄せていること、山頂付近等で見られる条線砂礫の構造土の成り立ちなど多くを学びました。



セイヨウタンポポの駆除を終えて

林野庁は「保護林制度等に関する有識者会議」において、現在の保護林の設定状況や保全管理状況における課題等を点検・整理することとしています。原生的な森林生態系からなる自然環境の維持や動植物の保護等のために、現状を知るこ

と人材を育成することは重要であり、この研修を今後に活かしていきたいと考えています。

福島県の子どもたちが 木曾ヒノキ備林を見学

【東濃署】七月三十一日と八月一日、福島県の小・中学生が木曾ヒノキ備林（中津川市、加子母裏木曾国有林）を見学しました。

東日本大震災で被災した福島県の子どもたちの心のケアをしようと、中津川市加子母地区で七月二十日から八月十九日まで行われているリフレッシュキャンペーン（主催：一般社団法人aichikara（愛知県））に参加した児童・生徒九六名のうち、小学四年生から中学一年生までの四八名が二日間に分かれて、国有林を訪れたものです。



森林の説明を聞く子どもたち

当日は、樹齢三百年を超える木曾ヒノキの巨木など裏木曾の自然を満喫してもらおうと、東濃森林管理署、岐阜県恵那農林事務所及び中津川市加子母総合事務所の職員が先生役を務め、子どもたちを案内しました。



木曾ヒノキの巨木に感嘆！

子どもたちは、ヒノキヤトチノキなどの巨木の迫力に驚いた様子で、特にシンボルとなっている「二代目大ヒノキ」を見上げて歓声をあげていました。

また、ヒノキとサワラの見分け方を教わると、早速、林内を散策しながら「あれはヒノキ、こっちはサワラかな」と樹木識別にとりかかりました。さらに、遊歩道を進みながら、トチの実、朴葉、クロモジの木などを見つけては一心に観察していました。

子どもたちからは、「歩くのは大変だったけれど、とても楽しかった。」との感想が聞かれました。今後とも、国有林が地元の様々な活動のお役に立てるよう、県・市とも協力して、取り組んでいきたいと考えています。

民国連携のシステム

販売スタート

【木曽署】八月六日、木曽森林管理署数原土場へ民有林のカラマツ材が初搬入されました。この取組は、七月二十四日に中部森林管理局と木曽森林組合、木曽官材市売協同組合、林ベニヤ産業株式会社と締結した「民国連携した林産物の安定供給システム協定」に基づくもので、木曽森林組合を民有林材供給者、木曽官材市売協同組合と林ベニヤ産業株式会社が共同の需要者と位置づけています。民有林材と国有林材がロットをまとめて協調出荷することにより、安定取引や有利販売が可能になり、民有林の森林整備の促進が期待されています。



搬入されるカラマツ材

なお、数原土場は、昨年八月に締結した「木曽谷流域森林整備推進協定」に基づき、本年七月から木曽官材市売協同組

合に土場の一部を貸付し、民有林材を扱うことができるようにしており、民国連携の販売・流通対策の拠点（中間土場）として活用することになっています。

数原土場は、貯材面積が二、三、八〇〇平方メートルあり、カラマツ人工林が多く分布している木曽谷北部に位置し、国道一九号線に近く大型トレーラーの乗り入れも容易であること等の流通の合理化に適した条件を備えています。今般の民有林材の搬入により、民国連携の姿が国有林の土場でみられるようになりました。



数原土場の様子

今回のシステム協定数量は、木曽森林管理署が四、二一〇立方メートル、木曽森林組合が三、〇〇〇立方メートル、民国合わせて七、二一〇立方メートルを予定していますが、今後は二〇、〇〇〇立方メートル以上を目標として、木曽産カラマツの産地化による付加価値を高め、地元の森林や産業に還元してい

くことを目指しています。

寄稿

かつて木曽ヒノキや天然広葉樹を運出し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

森林鉄道の里づくりを日ざして

元長野局人事課 大家 幸雄氏

王滝森林鉄道は沿線住民から「軽便」と親しまれ生活に欠かせない交通機関でもありました。昭和三十四年四月、長野営林局へ赴任する時、特別仕立ての列車で田鳥駅から送られたことが軽便乗車最後となり懐かしく思います。「王滝森林鉄道廃止三十周年を機に森林鉄道復活保存活動はじまる。」

新しい村づくりに向けて有志が集い協働事業で村営の松原スポーツ公園に約二キロの周回軌道を建設することになり、先ず啓発活動として「森林鉄道フェスティバル」を計画し第一回目を平成十七年五月に開催しました。

原動力は林鉄愛好グループ「りんてつ倶楽部」によるディーゼル機関車等の修復と支援であり、有志によるボランティア

活動で軌道布設が始まりました。また、全国に呼びかけ協賛者からの寄付金と長野県の「地域発・元気づくり支援金」を活用し事業を進め、その努力が実り軌道延長約一、〇〇〇メートルに達し公園の周回まであと五〇〇メートルとなりました。

平成二十五年十月は「第四回フェスティバル」を開催し、森林鉄道体験乗車会も企画したところ全国から千人を超す参加者があり森林鉄道に大きな思いと期待を感じました。

平成二十三年四月、活動の母体組織として「王滝森林鉄道の会（事務局を教育委員会に置く）」を発足しました。

会員は七〇名、枕木募金は七四〇名に及び更に呼びかけをしています。（年会費三、〇〇〇円、枕木募金一口五、〇〇〇円です）

国有林野事業に奉職した者として「温故知新」の思いで「森林鉄道の里づくり」を目ざして活動に参画しているところです。



「東信署 川上森林事務所」

首席森林官 松木 邦昭

川上森林事務所は、長野県の東部に位置し、中部森林管理局管内の最東端にある国有林で西は八ヶ岳（白駒の池から赤岳まで）から東は埼玉・山梨県境の甲武

信ヶ岳まで管理しており、国有林面積は約九五〇〇ヘクタールです。

管内には、日本百名山の八ヶ岳（八ヶ岳とは南北に連なる二〇以上の山々を総称して八ヶ岳という）、金峰山（長野県では「きんぼうさん」山梨県では「きんぷさん」と呼ぶ）、甲武信ヶ岳（甲州（山梨県）、武州（埼玉県）、信州（長野県）の境にあるのでこの名となったとの説がある）があり山岳好きの人にはたまらない職場ではないでしょうか。



高見石から望む白駒の池

また、管内には、いろいろな日本一がありますので、この機会に一部紹介させていただきます。

最初に、国有林内では、①日本一長い川「千曲川（信濃川）の源流」が甲武信ヶ岳の山頂直下にある。②北八ヶ岳自然休養林内の「白駒の池」は標高



本沢温泉露天風呂

二、一〇〇メートル以上位置する日本最大の天然湖。③国内の温泉としては最も標高が高い二、一五〇メートル地点に湧出する秘湯・本沢温泉等があります。

国有林外では、①JR鉄道最高地点（標高一三三五メートル）がある。②JRの駅のなかで日本一の標高にある野辺山駅がある。（なんとJRの駅の標高の高さベスト一〇のうち九つが小海線にある）③川上村は高原野菜の代表、レタスの栽培面積・生産量・出荷量が日本一。（本場に畑の広さが凄い、かつてはカラマツ苗木の一大生産地で北海道はじめ全国各地へ出荷していた）④野辺山宇宙電波観測所の電波望遠鏡の口径四五メートルは世界最大級となっている等、一部を紹介してみましたが、よくみるとほとんどが標高に関するものであることに気づきます。事務所もかなり標高の高いところにあるの

で、現在は涼しくて快適に生活していますが、来る冬期間の生活に一抹の不安があります。そんな管内は、北八ヶ岳自然休養林等の森林レクリエーション資源が豊富にある八ヶ岳（茅野市側は、南信署の管轄）を管轄しているため、森林管理業務が中心となっております。



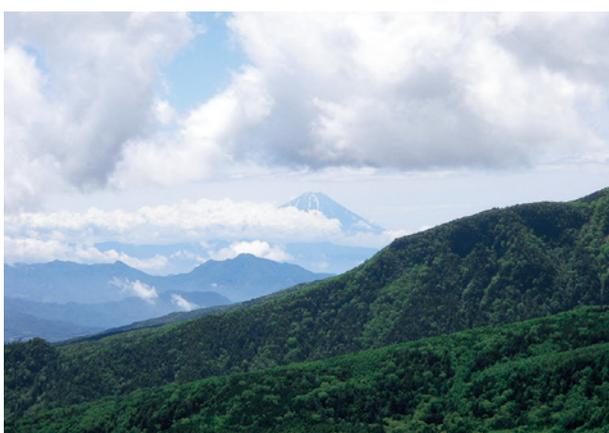
JR鉄道最高地点の標柱

八ヶ岳には、貴重な高山植物が多く生育していますが、近年ニホンジカによる食害被害が酷く、南北八ヶ岳保護管理運営協議会等と連携し防護柵や電気柵を設置し保護活動を行っており効果を得ています。しかし、この問題はニホンジカそのものの頭数が減らないと解決しないと感じています。

最近の業務としては、赴任したばかりですので管内を把握するため案内マップ等に記載されている登山道をすべて歩いてみようとしてGPSを片手に積極的に林野

巡視を行っておりますが、特に森林管理業務は現場の状況把握が重要と考えています。

これからも、安全で明るく・楽しく・元気をもっとうにがんばっていきたいと思います。こちらへお出かけの際は是非事務所にもお立ち寄りください。



八ヶ岳(にゅう)から望む富士山

行事・会議等の予定

◎防災訓練

9月2日 中部局

◎長野県西部地震復興三〇周年シンポジウム

ウム

9月18・19日 木曾町ほか

◎森林作業道現地検討会

9月24～26日 中信署管内



奈良井宿

◆中山道奈良井宿
 長野県塩尻市に中山道木曾十一宿中、最も賑わった奈良井宿があります。その繁栄のさまは「奈良井千軒」とも呼ばれるほどで、鳥居峠上り口にある鎮神社を京都側の端に、奈良井川沿いを緩やかに下りつつ約一キロにわたり家並みが続いています。

江戸時代や明治時代の建築物が立ち並び、往時の面影を色濃く残す奈良井宿は、昭和五十三年に国の重要伝統的建造物保存地区（重伝建）に選定されています。



鎮神社

【鎮神社】
 元和四年、奈良井宿に疫病が流行り、これを鎮めるために下総国香取神宮から経津主神を招き祭祀を始めたといわれています。



高札場



水場

重伝建に選定され三十六年が経ち、これまで修理修景が行われ江戸の宿場町を肌で感じる町並みとなりました。江戸時代の形式をとどめた家で、現代の生活が営まれておりますので、ゆっくり町を歩いては如何でしょうか。

◆木曾平沢（漆工町）
 木曾平沢は、慶長三年に奈良井川の左岸にあった道が右岸に付け替えられたことを契機に周辺から移転し集落が形成されていったと考えられています。この道は



観音像



中山道と杉並木

【杉並木と二百地蔵】
 塩尻方面よりの旧中山道では、杉並木が旧街道の面影を良く伝えており、胸高直径五〇センチ以上の杉、一七本を数えま

また、明治初期の国道開削・鉄道敷設の折に奈良井宿周辺から集められた千手観音・如意輪観音などの観音像があります。

アクセス方法
【公共交通機関】
 奈良井宿…JR中央西線奈良井駅下車
 木曾平沢…JR中央西線木曾平沢駅下車
【自家用車】 中央自動車道伊那IC→国道三六一号線経由で約四十分



木曾平沢の町並み

中山道の一部として整備されました。近世には、奈良井宿の在郷として位置づけられ、檜物細工、漆器の生産で生計を立ててきました。

このような近世状況から木曾漆器が大きく発展したのは、明治初期に地区内で「錆土」という下地材が発見されたことにより産業としての基盤が確立し、漆工町として発展してきました。

これらの歴史的景観と漆工という伝統工芸の職人町として木曾平沢は、平成十八年に国の重伝建に選定されました。裏通りや小路を歩き表通りでは発見できない魅力に気づいてください。